

一般財団法人日本不動産研究所<sup>®</sup>  
**地域資源を生かす**  
 ~まちづくりからインバウンドまで

**大分市 外国宿泊客数が急増**

それも別府市に所在すると思っている人も多く、観光地としての認知度は低い。  
 大分市街地中心部のJR大分駅および周辺地域では、県・市・JR九州による、百年に一度の大事業「大分駅周辺総合整備事業」が完了し、15年4月にはJR大分駅北口で商業施設やホテル等を有する新大分駅ビル「JRおおいシテイ」が開業した。  
 その駅前広場には二体の銅像が建っている。一体はフランシスコ・ザビエル、もう一体は大友宗麟である。フラン

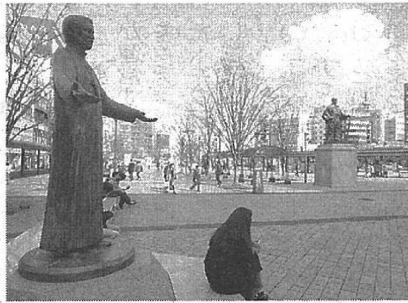


石垣や大手門などが残る城址公園



発掘された約4万㎡の大友氏遺跡

17年の宿泊旅行統計調査では、大分県内の外国宿泊客数の伸び率は67・7%と全国トップだった。有名な温泉観光地である別府や湯布院の影響が大きい。一方、県庁所在地の大分市では、我が国最大のニホンザル群生息地である高崎山自然動物園と水族館「つみたま」が有名だが、



駅前広場に2体の銅像が並ぶ



西洋音楽が演奏された記念碑

**豊富な南蛮文化の史跡群**

**市街地の回遊性高まる**

シスコ・ザビエルは、歴史の教科書で鹿児島県へ上陸したことは有名だが、当時の豊後国に招かれ、キリスト教の布教活動を行った。その彼を招いたのが大友宗麟で、室町時代後期に豊後、豊前、筑前、筑後、肥前、肥後を支配した。南蛮貿易やキリスト教の保護のほか、自らもキリシタン大名となり、豊後府内（現大分市）は、国際貿易で栄えた。

本初の西洋音楽が演奏されたことを記念する西洋音楽発祥記念碑のほか、荒城の月を作曲した滝廉太郎の終焉の地碑がある。また、県庁や市役所の隣接地に石垣・大手門・堀・櫓を残した府内城跡を中心とする城址公園がある。更に市街地の東部には約4万㎡の大友氏遺跡があり、発掘調査により地下に埋まっていたまちが姿を現した。今後、主殿を復元するなど、歴史公園として整備する方針である。

**交流館がオープン**

大分県庁隣の市道沿いには遊歩公園があり、西洋式病院が建ち日本初の外科手術が行われことを記す西洋医学発祥記念像やクリスマススイブに日交流館」がオープンし、大士・上治昭人

その一角に「南蛮B.V.N.G」

小型バスの実証運転がJR大分駅と「南蛮B.V.N.G」交流館」を結ぶルートで行われ、好評を得た。また英語、韓国語、中国語に対応し、運行状況がスマートフォンで確認できるバスロケーションシステム「バスど大分」が今年3月に開始予定だ。このように、大分市街地内には南蛮文化の歴史を知る史跡等が多く、インバウンドへの対応も整備されつつある。史跡等の整備計画を含め、JR大分駅から遊歩公園、城址公園、大友氏遺跡等への回遊性を創出するまちづくりを期待したい。（大分支所、不動産鑑定